

第4回 国際臨床医学会学術集会 オープン・フォーラム

【世界を舞台に保健の仕事をしてよう!】



日時：2019年12月14日(土)

時間：15:30~17:00

会場：九州大学 西新プラザ

厚生労働省委託事業
グローバルヘルス
人材戦略センター主催

15:30-15:35 座長ご挨拶 中谷比呂樹

(国立国際医療研究センター・
グローバルヘルス人材戦略センター所長)

15:35-16:05 「WHOの役割と求められる人材」

Eric TAGNON (WHO 西太平洋事務局人事課長)

16:05-16:20 「世界銀行で働くには」

平井智子 (世界銀行東京事務所上級広報担当官)

16:20-16:35 「国際保健政策人材に必要なコンピテンシー」

大澤絵里 (国立保健医療科学院主任研究官)

16:35-16:55 質疑応答

16:55-17:00 座長による総括

参加費：無料 (学術集会は有料)

言語：英語 (日英逐語訳あり)

会場地図

⇒<http://icm2019.umin.jp/access.html>

問合せ先：地引英理子

ejibiki@hosp.ncgm.go.jp

国際臨床医学会学術集会 オープン・フォーラム
「世界を舞台に保健の仕事しよう！」

座長・講師 紹介とメッセージ



国立国際医療研究センター (NCGM)
グローバルヘルス人材戦略センター長
中谷 比呂樹 (なかたにひろき)

座長

元 WHO 本部事務局長補 (ADG)・元厚生労働省部長。併せ、現慶應義塾大学特任教授及び大阪大学招聘教授。併せて国際的公職多数を兼任。WHO 在任中は頻りに幹部職員を選考委員長を務める。また、厚生労働省在職中は、150 名を超える医師行政官の採用と配置の調整を行うなど、人材の開発と選考に経験豊富で、キャリアアップを望む様々な職種の後進への助言と支援に情熱を持つ。今、グローバルヘルスはダイナミックに変貌し、急速に規模が拡大している。言い換えれば、挑戦と機会に満ちた領域になっている。日本は、国連や G20 の場で UHC への支援を強く表明しており、その推進にあたる国際人材が求められている、加えて、世界最高水準の医療を達成し、人類未曾有の少子高齢化に立ち向かう我が国の保健医療人材の経験や知識を共有して欲しいとの希望も大きい。そこで、世界で活躍する道筋を、望みうる最良のパネリストからお聞きいただくために企画したのが、今回のオープン・フォーラムである。参加者の人生を変えるような有意義な会となることを期待している。



世界保健機関 (WHO) 西太平洋地域事務局
人事部長

Eric Tagnon (エリック・タグノン)

講演：WHO の役割と求められる人材

1) 概要説明・WHO を知る

WHO のグローバルヘルスにおける機能と役割を学ぶ。

2) WHO のリクルートメント・プロセス

WHO のリクルートメント・プロセスおよび世界共通のコンピテンシーの例とコンピテンシー・ベースのインタビューについて学ぶ。

経歴：ベニン (西アフリカ) 出身のフランス人。仏の University of Dijon にて経営学修士、仏の Institut de Gestion Sociale of Lyon にて人材管理開発のプロフェッショナル修士 II を取得。

人事において、25 年間の様々な分野での幅広い経験を有する。その経験は、人事政策策定やその履行に加え、報酬および給付、リクルートメントと人員配置、教育と人材開発、パフォーマンス管理やスタッフ・リレーションにも及ぶ。職歴の始めには、金融部門で、西アフリカ諸国中央銀行の人事部において人事部門のトップとして 20 年の勤務経験を有する。国際保健機構 (WHO) ではこれまでに 10 年間勤務。アフリカのブラザヴィル (コンゴ) の地域事務局で人事部のシニア・マネージャーとして 8 年、そして現在勤務するマニラ (フィリピン) の西太平洋地域事務局で人事部長として 3 年の経験を有する、強いリーダーシップと指導のもと、人事管理チームを率い、他のシニア・マネージメントのメンバーと共に人事戦略の策定・実施する。

～メッセージ～

WHO の仕事は、人命救助に貢献し、世界中の人々の健康を支える特別な機会を提供します。国連での仕事はどんなものか知りたい方、国際保健に強い関心がある方はぜひこのオープン・フォーラムにご参加下さい。WHO の強みの一つに多様な人材があります。私たちは世界中から、ヘルスケア人材、研究者、民間セクター経験者、NGO 経験者を含め、様々な背景を持ったスタッフを世界中から採用しています。お会いするのを楽しみにしています！



世界銀行東京事務所 上席広報担当官
平井 智子（ひらい ともこ）

講演：世界銀行で働くには

経歴：国連機関や NGO での広報活動などを経て、1996 年世界銀行入行。東京事務所では主にメディア対応、アフリカ地域、信託基金管理、日本人リクルート等を担当。2019 年 8 月に横浜で開催された第 7 回アフリカ開発会議（TICAD 7）では外務省や他の共催者との連携を果たした。世界銀行は日本人職員を増やすため毎年リクルートミッションを日本に派遣しており、候補者へのキャリアアドバイスなども行っている。2002 年～2003 年、ワシントン本部の東アジア大洋州地域総局勤務。上智大学卒、トロント大学大学院にて修士課程修了。

～メッセージ～

世界銀行は、インフラから環境、保健、教育など、途上国が成長するために必要なあらゆる分野に資金や助言を提供する開発金融機関です。そのため職員も世界中から専門家が集まっています。そうした環境の中で専門性と同じ位重要なのが「ピープルスキル」。上司や同僚と良好な人間関係を作るのは勿論ですが、自分の仕事をアピールしたり、はっきりと自分の意見を主張したりするクセを日ごろから培っておくことは将来必ず役に立つと思います。



国立保健医療科学院
国際協力研究部 主任研究官
大澤 絵里（おおさわ えり）

講演：国際保健政策人材に必要なコンピテンシー

経歴：ジンバブエ赤十字社コミュニティーにおける HIV/エイズ対策プロジェクトに従事。その後、国立保健医療科学院専門課程国際保健コースおよび研究課程を修了し、国立保健医療科学院国際協力研究部主任研究官として着任。現在、WPRO との共同研修（生活習慣病対策研修）、JICA 研修（保健衛生管理研修）、国内公衆衛生従事者を対象とした研修、また都道府県や市町村で開催される公衆衛生活動に関する講義などを通して、人材育成に従事している。また、研究分野において、国際保健に関する研究課題の他にも、ヘルスプロモーションをキーワードに、日本における市町村保健センター機能に関する研究班、母子（親子）保健や子育て支援に関する研究班の代表研究者や分担研究者を担っている。専門は、地域保健、ヘルスプロモーション、国際保健。

～メッセージ～

国際機関で働くために語学をはじめ特有なコンピテンシーが必要である。しかし、まずその前に、この分野で自分が何を専門に、どのように仕事をしたいのかを、常に考えてほしい。国際機関で働きたいと思った初心は、国際機関へチャレンジし、その後その仕事を続ける上での一番大きなモチベーションとなる。国際機関へのチャレンジはそう簡単ではない。だが、今、目の前にある課題に、紹介するコンピテンシーを頭の片隅におき、熱意をもって対応することが、自分自身を高める第一歩となる。

グローバルヘルス人材戦略センター
Human Resource Strategy Center for Global Health

hrc-gh.ncgm.go.jp

グローバルヘルス人材戦略センター

人材登録・検索システムはこちら！

⇒「<https://hrc-gh-system.ncgm.go.jp/>」

